

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和5年3月1日(2023.3.1)

【国際公開番号】WO2022/209442

【出願番号】特願2022-562272(P2022-562272)

【国際特許分類】

C 0 8 L 3 3 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

C 0 8 L 5 1 / 0 4 (2 0 0 6 . 0 1)

【 F I 】

C 0 8 L 3 3 / 0 4

C 0 8 L 5 1 / 0 4

10

【手続補正書】

【提出日】令和4年10月12日(2022.10.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

20

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下記グラフト共重合体(A)、下記グラフト共重合体(B)、および下記ビニル系共重合体(C)を含む熱可塑性樹脂組成物であって、

前記熱可塑性樹脂組成物に含まれるゴム状重合体の割合が前記熱可塑性樹脂組成物の総質量に対して21~28質量%であり、かつ前記ゴム状重合体が形成する全粒子のうち、粒子径が300nm以上の粒子の割合が前記全粒子の総質量に対して1~11質量%である、熱可塑性樹脂組成物。

(A): アルキル(メタ)アクリレート単量体単位100質量部に対して多官能性単量体単位を0.2質量部以上0.9質量部未満で含むアルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(a)20~80質量%の存在下に、ビニル系単量体混合物(m1)80~20質量%(ただし、前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(a)と前記ビニル系単量体混合物(m1)との合計を100質量%とする。)を重合して得られるグラフト共重合体であって、前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(a)の体積平均粒子径が70nm以上130nm未満であるグラフト共重合体(A)

30

(B): アルキル(メタ)アクリレート単量体単位100質量部に対して多官能性単量体単位を0.9~2.2質量部で含むアルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(b)20~80質量%の存在下に、ビニル系単量体混合物(m2)80~20質量%(ただし、前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(b)と前記ビニル系単量体混合物(m2)との合計を100質量%とする。)を重合して得られるグラフト共重合体であって、前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(b)の体積平均粒子径が130~200nmであるグラフト共重合体(B)

40

(C): アルキル(メタ)アクリレート単量体を含有するビニル系単量体混合物(m3)を重合してなるビニル系共重合体(C)

【請求項2】

前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(a)が、ポリオルガノシロキサンを含むゴム状重合体である、請求項1に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項3】

前記アルキル(メタ)アクリレート系ゴム状重合体(b)が、ポリオルガノシロキサンを含むゴム状重合体である、請求項1または2に記載の熱可塑性樹脂組成物。

50

【請求項 4】

前記ビニル系単量体混合物 (m 3) が、芳香族ビニル系単量体およびシアン化ビニル系単量体をさらに含有する、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 5】

前記アルキル (メタ) アクリレート系ゴム状重合体 (a) と、前記アルキル (メタ) アクリレート系ゴム状重合体 (b) の合計を 1 0 0 質量%としたときに、前記アルキル (メタ) アクリレート系ゴム状重合体 (a) の割合が 3 0 ~ 9 0 質量%であり、前記アルキル (メタ) アクリレート系ゴム状重合体 (b) の割合が 7 0 ~ 1 0 質量%である、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の熱可塑性樹脂組成物。

【請求項 6】

請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の熱可塑性樹脂組成物を用いた、成形品。

10

20

30

40

50